

環境大臣賞 稚内市恵北地区「香りとさえずりの杜」コミュニティガーデンづくり

企画者 : 稚内市歴史・まち研究会／稚内市恵北地区・増幌地区まちづくり委員会
 評価点 : 55年間放置され地域の負の遺産となっていた旧海軍通信所（敷地面積約64,000m²）に、宗谷地区の気候風土にふさわしい「香りの樹木」及び「実のなる樹木」を植栽し、野鳥を集め、市民の憩いの場を再生する。地域住民を中心に自主管理による地域コミュニティガーデンづくりを行うものであり、植栽・管理についても一般の方々から公募し、メモリアルツリーとしての登録を行うなど楽しみながら管理してもらう。

北海道
 稚内市恵北地区（旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊基別通信所分庁舎周辺）
「香りとさえずりの杜」
 コミュニティガーデンづくり

一企画の目的一
 55年間放置されていた旧海軍通信所周辺に「香りの樹木」と「実のなる樹木」を植栽し、野鳥を集め「市民の憩いの場」に再生する。
 地域住民を中心とした自主管理によりコミュニティガーデンにする。

一香りのテーマ一
 日本の最北端に相応しい、稚内市の市木「エゾヤマザクラ」と市花「ハマナス」を中心に、ハナリンゴ・ライラック・ラベンダー・スモモなど北国の香りの樹を植樹する。
 一さえずりのテーマ一
 当地区に生息する、シジュウカラ・カッコウ・ツツドリなどの、鳴き声が癒してくれる野鳥のため、実のなる樹木を植樹して「野鳥の広場」を作る。

香ゾーンのイメージ
 ●コミュニティガーデン
 敷地全体に合計500本の桜を植樹。市民が春の香りを感じられる空間となる。

●野鳥の水浴場
 野鳥の水浴をウォッチング出来る絶好のスポット。山だけではなく草原に住む野鳥も多くみられ、野鳥の種類が豊富な地域である。
 シジュウカラ ツツドリ

●野鳥の広場
 ハナリンゴ・ナナカマド(稚内市の市木)・スモモ・ラズベリーなど、食べられる実がなる樹木を植栽し、集まる野鳥への感謝と恵みの心をもって作る広場。
 ハナリンゴ 10本 ナナカマド 10本 ラズベリー 10本 スモモ 10本

●見晴丘
 クルミが繁り、アルメリアが植えられた丘からは西に利尻岳の山頂を臨み、大自然を堪能出来る広場となる。
 アルメリア 100株付 クルミ 10本

●花のアプローチ
 入り口から丘の上まで、およそ250mの道沿いにエゾヤマザクラ・ラベンダーが植えられ、四季の野草も楽しめるアプローチとなる。
 エゾヤマザクラ 100本 ラベンダー 300株付
 コケモモ 10本 アジサイ 10本
 フサスグリ 10本 黒ユリ 100株付

●香りの広場
 戦前は住宅地だった場所を、初夏はライラック、夏はハマナス、そして長期に渡って香りを楽しめるヘメロカリスが咲く「香りの癒しがある広場」に再生する。
 ライラック 白10・紫20本 はまなす 白10・ハダ10本 ヘメロカリス 100株付

旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊基別通信所分庁舎 昭和6年建設

におい・かおり環境協会賞 四季を織りなす新たなかおり手法で都市緑地を再生

企画者 : 東京農業大学造園科学科

評価点 : 日陰地であり意匠性の乏しい都市緑地に香り樹木を植栽することで、都会で暮らす人々に季節を身近な植物の芳香で感じる機会、香りによる癒しとくつろぎを提供するものであり、老朽化し、利用率の低い都市緑地の「かおり」を基軸にした再生を目指している。また、1月から12月まで年間を通して香りが楽しめる「かおりつる植物の混植パネル」など新たな緑化手法が提案されている。実際の再生工事や維持管理はデザインに携わった学生により行われる。

四季を織りなす新たなかおり手法で都市緑地を再生

企画概要

本企画は、世田谷区と東京農業大学の共同で行う、かおりの価値を用いた都市緑地の再生事業である。而大学の造園科学科学生4グループによるコンペの提案選出されたベース案に他のグループのよい点を取り入れ改良とした。尚、施工その他の維持管理も同大学学生が行っていくものである。
(4グループの各平面図は別途添付資料を参照)



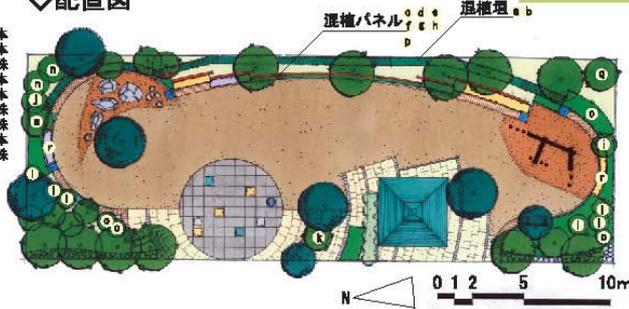
「かおり」を基軸に老朽化し、存在感と利用率の低い都市緑地の再生を目指す先駆的試みであり「公園再生時代」の今後の範とする。



使用する樹木一覧

m: ツバキ	56本	j: キンカン	1本
b: セイヨウバクテノキ	56本	k: ウメ	1本
o: カロイナジャスミン	19株	l: ジンチョウゲ	42株
d: ハゴロモジャスミン	19株	m: ナツミカン	1本
e: タイカズラ	26株	n: ヌズ	2本
f: スイカズラ	26株	o: クチナシ	42株
g: モッコウバラ	8株	p: ヤブラン	30株
h: ナニワバラ	8株	q: ウンナンオウバイ	1本
i: ミツマタ	1本	r: キンメツグ	20株

配置図



企画の目的

世田谷区上野原に位置する馬車公園前緑地は世田谷区景観の1つでもあるケヤキ広場に隣接し、面積400.3㎡と好立地にありながら、日陰地で、意匠性に乏しくトイレ以外の利用率は低く、周辺住民にとっても都市緑地として認知されていない実態にあります。当企画で香り樹木を植栽した空間へ改善するとともに都会で暮らす人々には少なくなってしまう季節を身近な植物の芳香で感じる機会香りによる癒しとくつろぎを提供します。奥儀乗換陶器品の照明器具と香炉を配し、夜間利用と時期を特定した人工資材による香りの演出も行います。

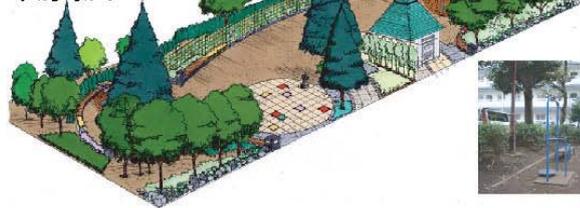
かおりのテーマ

「かおりつる植物の混植パネル」「かおり樹木の混植垣」によって1月から12月まで年間を通して香りが楽しめることを配慮し、訪れる人々へ季節の移り変わりを香りによって演出します。園内のコンテナガーデンは趣味的な外観、機能、取り換えが容易なものとし、匂いの植物の配置が可能となっています。訪れる人々へ植物の香りへの関心、感動、四季折々の香りの存在を体感してもらい、香りに対する見方、接し方に変化を促すことを目的とし、近隣住民をはじめ、この場所から広がる香りのムーブメントを生み出すようなアンテナスポットとなることを期待しています。

街づくりのテーマ

香り要素を取り込んだ都市緑地の再生をすることで、地域のコミュニケーションスペースとしての機能拡充を図ります。また、周辺建物・施設との一体感を持たせることにより、魅力を向上させます。園内に限定した遊び方ではなく、ヒノキの香りの利の道具を積極的に取り入れ、子ども達の創造性を尊重します。安心・安全で快適な空間として機能することを狙いとしています。

鳥瞰図



現地現況写真



日本アロマ環境協会賞 北野活性化プロジェクト・かおりでつなぐ観光名所
 ～風見鶏 meets HERB～

企画者 : 清里ハイランドパーク株式会社神戸事業所

評価点 : かおりの樹木の植栽により異人館と布引ハーブ園とを香りでつなぎ、「北野」のもつ異文化のイメージに「かおり」のイメージを加え、より個性的で魅力的なまちづくりを行う。また、新神戸から布引の滝を通るハイキングコースの一部にサクラの森を作ることにより、多くの利用者が香りを楽しめる。

布引ハーブ園へ行く主要なルートは、異人館で有名な北野から乗るロープウェーです。布引ハーブ園、異人館ともに神戸観光の要所ですが、現在、これらをつなげるための仕掛けはほとんどありません。

本計画は、新しい名所を創造しようとするものではなく、現存する観光名所を香りを使ってつなげることで、地域としての魅力を高めようとするものです。北野は、新幹線の駅があり、また三宮からも徒歩圏内という恵まれた立地にあります。北野のもつ異文化のイメージに、「かおり」というイメージを加えることで、より個性的な魅力をもった地域となります。本計画では、かおりの樹木を植栽することで、異人館と布引ハーブ園とを香りでつなぎ、北野の地域活性化を図ります。異人館のシンボルである風見鶏までもが香りに引き寄せられて飛んでく・・・～風見鶏 meets HERB～には、そんな願いがこめられています。

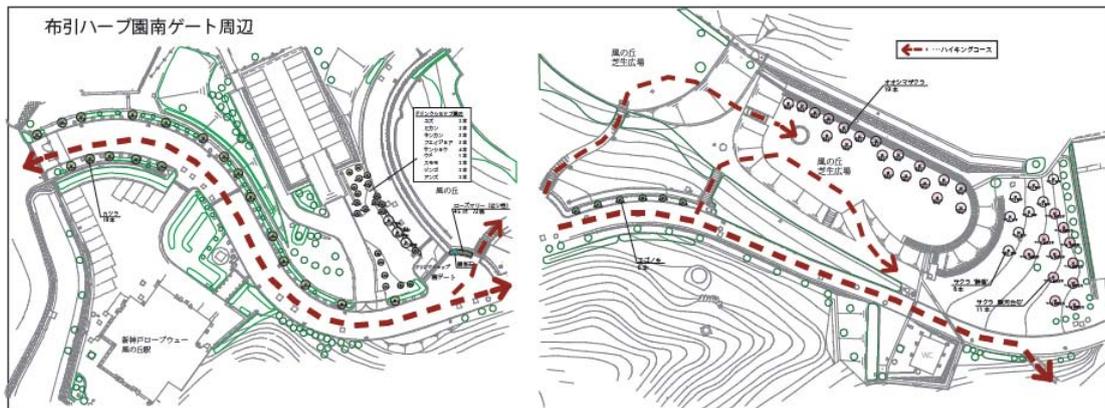
ハーブは、一部には、美しい花をつけ、強い香りをもつものもありますが、全体として、地味な印象をもつものが多いです。そこに、人を引きつけることのできる、華やかなイメージと香りをもった植物を加えていきます。対象地は通行量の多い道路に面していますが、道路を奥へ進むごとに植物の香りが強く感じられるようになり、一步ごとに布引ハーブ園へ向ける期待度が高まります。

また、布引ハーブ園付近には「布引の滝」という有名な名所があり、新神戸から布引の滝を通過して布引ハーブ園へ向かう山道は、人気のハイキングコースとなっています。ハイキングコースを通過して布引ハーブ園に到着する人にとってのエントランス部分である、正門から南ゲート周辺までのエリアにも、かおりの樹木を植栽します。また、無料ゾーンの一部である芝生広場にサクラの森を作ることで、ハーブ園利用者・ハイキングコース利用者のどちらにもお花見と紅葉をたのしめる場所を提供できます。

北野活性化プロジェクト
 かおりでつなぐ観光名所
 ～風見鶏 meets HERB～



異人館通り・北野通りから新神戸ロープウェー乗り場へのエントランス部分



入賞 香りただよ四季おりおりの競輪場

企画者 : 京都府
 評価点 : 競輪場前の広場等に四季おりおりの花の樹木を植栽し、府民が来場し、香木を楽しんでもらえるような、みどり香る明るい公共空間として再生する企画である。

香りただよ四季おりおりの競輪場 (京都府自転車競技事務所)

- 1 企画の目的 広く府民に開かれた施設として誰でも気軽に入れるようにするため、競輪場前の広場を明るくして、さらに場内の子供広場の木を植え替え、みどり香る公共空間として気軽に府民が競輪場に入場できるような環境づくりを行う。
- 2 アピールポイント 競輪場に來られる競輪ファンだけでなく、今後は府民一般の多くの方が競輪場に足を運んでもらう香木を楽しんでもらう。
- 3 地形図



4 配置図 現状



(1)~(4)



(5)~(6)



(8)



(7)

5 使用する香木

①②③⑤

サクラ

クチナシ

キンモクセイ

④⑥⑦⑧

ロウバイ

サクラ

クチナシ

キンモクセイ

オガダマノキ

ライラック

モッコク

ナナカマド

- 6 企画の効果 ともすれば競輪場は入りにくい場所という印象があったために、みどり香る明るい空間として今後青年・女性・子供を含めた多数の府民が入場して気楽に場内を楽しんでもらうようにする。

